

平成30年度 石狩ブロックの研究

研究主題

自らの命を守るために、主体的に行動する子どもの育成をめざして
～事例交流を通して～

主題設定の理由

私たち養護教諭は、昨今様々な場面で子どもたちへの対応について最新の知識と専門性が求められている。具体的な場面としては、食物アレルギーに由来するアナフィラキシーショックの発症時の対応、いじめの問題、心の問題、虐待が疑われる子どもの問題など、関わる内容は多岐多様になってきている。緊急時における対応についても、子どもの基礎疾患や特性・家庭環境など子どもを中心に考えた時に、本当に適正であったのかと振り返ることもある。これらを解決するための一つとして、対応や処置の根拠となるものをしっかりと理解し、知識として身につけていくことで、子ども一人ひとりに応じた救急処置ができるのではないかと考える。そこで、緊急時の事例や救急体制などの事例を交流し、実践からの学びを追求していく。そこから保健室での対応、さらには学校での対応について課題を探り解決に向けてとりくんでいく。それにより画一的な健康ではなく、一人ひとり自分の健康について考えられるよう「子どもたち自身が自分の命を守る」ことを意識づけ、主体的に行動する子どもを育みたいと考え、主題を設定した。

研究の仮説

1. 緊急時の対応や救急処置および校内体制について各校での実践を交流し、緊急時の子どもを巡る状況やとりくみを検討していくことで学校での対応に関する課題が明確になる。
2. 教職員や子ども自身が健康課題に気づき、それを解決していく知識を身につけることで、子どもの命を守ることにつながり、さらには、自己選択・自己決定する子どもの育成につなげることができる。

研究内容

1. 仮説1について救急体制の実践交流を行う。
 - ・校内の救急体制
 - ・救急処置の事例の交流と検討（救急車要請を含む）
2. 理論研・実技研により知識を深める。
3. 明確にした課題について、解決に向けた取り組みを行う。
4. 検証を行う。

研究方法

1. 全体会もしくは、グループ交流（小学校・中学校など）に分かれ、実践交流を行う。
2. 全体会・グループ交流の司会、記録は学習部担当の先生にお願いする。
3. 交流プリント・資料提示する場合は、全員分用意する。